

〈アオムシ君の季節〉

防虫ネットをかけていないスティックセニョールに、モンシロチョウの卵がビッシリ付いていた。葉の裏側に産み付けることが多いのだが、表にもいっぱい付いていた。産みたては白っぽい色をしているが、日経つにつれだんだん色が濃くなる。気温にもよるが早ければ4、5日で孵化する。孵化してしまうと食害が広がるので卵のうちに駆除する。“かわいそ〜”なんて感傷的になっていたら無農薬野菜など育てられない。卵のうちなら軽く指先で払い落とせばいい。キャベツにはネットをかけたので大丈夫だが、スティックセニョールは毎日チェックしないとボロボロにされてしまう。見回りが大変だ！



卵を見つけ手当たり次第に駆除していると、生まれたばかりのちっちゃ〜いアオムシがいた。せいぜい1~2ミリほどの大きさか。まだ葉っぱを食べ始めたばかりのようで、やっと薄緑色の体になっている。小さすぎて写真を撮るのも大変だ。この程度ならまだ葉っぱをなめるぐらいだが、すぐに大きくなり葉っぱは穴だらけになる。見つけやすくはなるがその分潰すのにチクリと胸が痛む。鳥が先につまんでくれれば申し分ないのだが、こう旨くカモフラージュしていると鳥も気づきにくいようだ。今日もモンシロチョウが何頭も畑を飛び回っていた。ダイコンやカブ、コマツナなどにしこたま卵を産みつけていることだろう。これからまた虫退治の季節到来だ。殺生した分きっちりと野菜を食べようと思う。

